SOMPO JAPAN FOUNDATION NEWS　２００５－１号　平成１７年４月・７月合併号

損保ジャパン記念財団 News

●発行者：財団法人損保ジャパン記念財団 〒160-8338　東京都新宿区西新宿 1-26-1 損保ジャパン本社ビル３７階
TEL03-3349-9570 FAX03-5322-5257 http://www.sompo-japan.co.jp/foundation　Eメール:fvgp3340@mb.infoweb.ne.jp

16年度第2回通常理事会・評議員会(3月29日) 開催

平成17年度　事業計画・予算が決定

平成１７年３月２９日（火）開催の理事会・評議員会において、総額１.４億円の事業計画および収支予算が承認されました。厳しい経済情勢のもと寄付金収入・運用収入ともに減少傾向にありますが、今年も特色ある有益な事業を展開してまいります。

主な事業計画ならびに予算は下記の通りです。

１. 社会福祉事業

（１）ＮＰＯ法人設立資金助成（２，１００万円・４月公募）

障害者・高齢者福祉の活動を行う団体で、平成１７年度中にＮＰＯ法人の設立申請を行う団体に対し１団体３０万円、総額２，１００万円を助成する。

（２）ＮＰＯ法人組織強化資金助成（６００万円・下半期）

福祉系ＮＰＯ法人の育成を目的とした「組織強化資金」を、１団体１００万円を上限に助成する。

（３）自動車購入費助成（１，０００万円・９月公募）

西日本地区のＮＰＯ法人等の障害者福祉団体に対し１団体１００万円を上限に、総額１，０００万円を助成する。

（４）会議会合・国際交流費助成（５００万円・非公募）

－障害者福祉団体の各種会合開催費・国際交流費の助成

－障害者福祉団体に対する地域災害発生時の緊急対策費　を助成する。

２. 福祉諸科学事業

（１）研究助成（２００万円・非公募）

社会福祉や損害保険等の研究に対する助成。

（２）研究会（講演会と合わせて４００万円）

－米国保険法（役員賠償責任保険）研究会

－欧州ヘルスケアビジネスおよびディジーズ・マネジメント研究会

－保険業法に関する研究会

（３）講演会・シンポジウムの開催　　（研究会と合わせて４００万円）

（４）刊行物の発行（３００万円）

研究会の研究成果、講演会の講演録を中心とした叢書の発行。

ＮＰＯ法人に関する各種資料の改訂版作成・配布。

財団活動に関する報告書の作成。

3. 損保ジャパン記念財団賞(第7回)

社会福祉分野の優秀な学術文献を表彰するわが国唯一の制度で、将来性が期待できる若手・中堅の研究者を対象として、人材の育成を目指しています。

（1）賞の内容 ： 著書部門　原則１編
論文部門　原則３編以内

（2）対象文献 ： 平成１６年４月から平成１７年３月までの間に、国内で発表された社会福祉に関する著書・論文で、指定推薦者による推薦を受けたもの。

平成17年度収支予算

(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

(単位：円)

科目			17年度予算額	16年度予算額	増減	備考
大科目	中科目	小科目				
Ⅰ．収入の部						
1．基本財産運用収入			7,800,000	8,000,000	△ 200,000	
2．寄付金収入			73,000,000	71,000,000	2,000,000	個人寄付増
3．雑収入	受取利息		10,000	10,000	0	
4．基本財産収入			0	0	0	
当期収入合計（A）			80,810,000	79,010,000	1,800,000	
前期繰越収支差額			56,000,000	66,000,000	△ 10,000,000	
収入合計（B）			136,810,000	145,010,000	△ 8,200,000	
Ⅱ．支出の部						
1．事業費	社会福祉事業費	助成金	42,000,000	42,000,000	0	
		諸費用	4,000,000	4,000,000	0	
	(小計)		46,000,000	46,000,000	0	
	福祉諸科学事業費	助成金	2,000,000	2,000,000	0	
		諸謝金	4,000,000	4,000,000	0	
		刊行物関係	3,000,000	3,000,000	0	
		諸費用	3,000,000	3,000,000	0	
	(小計)		12,000,000	12,000,000	0	
	文献表彰事業費		8,000,000	8,000,000	0	
	(小計)		8,000,000	8,000,000	0	
(事業費計)			66,000,000	66,000,000	0	
2．管理費	人件費	給与等	18,000,000	17,500,000	500,000	
	物件費	会合費	2,000,000	2,000,000	0	
		旅費交通費	300,000	300,000	0	
		通信費	700,000	700,000	0	
		消耗品費	300,000	300,000	0	
		図書費	300,000	200,000	100,000	
		備品費	200,000	200,000	0	
		資産管理費	600,000	600,000	0	
		印刷製本費	200,000	200,000	0	
		光熱費	300,000	0	300,000	新事務室
		賃借料	500,000	500,000	0	
		調査費	200,000	200,000	0	
		諸会費	600,000	600,000	0	
		雑費	1,000,000	2,300,000	△ 1,300,000	投資顧問契約の解除
		業務委託費	7,000,000	7,000,000	0	
	(物件費小計)		14,200,000	15,100,000	△ 900,000	
(管理費計)			32,200,000	32,600,000	△ 400,000	
3．基本財産支出	基本普通預金支出		0	0	0	
	投資有価証券購入支出		0	0	0	
4．特定預金支出	退職給与引当預金支出		0	0	0	
5．予備費			5,000,000	5,000,000	0	
当期支出合計（C）			103,200,000	103,600,000	△ 400,000	
当期収支差額（A-C）			△ 22,390,000	△ 24,590,000	2,200,000	
次期繰越収支差額（B-C）			33,610,000	41,410,000	△ 7,800,000	

17年度第1回通常理事会・評議員会(6月13日) 開催

16年度事業報告・収支決算承認される

６月１３日開催の平成１７年度第１回通常理事会・評議員会において平成１６年度の「事業報告」と「収支決算」が原案通り承認可決されました。

平成１６年度の収入金額は、寄付金収入を中心に約１億４，９００万円、一方当期支出額は、約９，０００万円（助成金等の事業支出は５，８００万円、管理費は３，２００万円）となり、計画した事業はほぼ予定通り実施されました。

今期は、引き続きニーズの高い「ＮＰＯ法人設立資金助成」と「自動車購入費助成」を継続実施し、それに続く事業として「ＮＰＯ法人基盤強化資金助成」事業を新たに立ち上げたのを始め、１０月２３日に発生した「新潟中越地震」の被災障害者施設に対し地域災害等緊急対策助成を行いました。

福祉諸科学事業においては、山下友信先生（東大教授）を主査とする「保険業法に関する研究会」を新たに開始し、保険募集に関する禁止行為のあり方を中心に研究を進めています。また「米国保険法研究会」は研究成果を公刊すべく準備を進めました。

社会福祉文献事業としての第６回「損保ジャパン記念財団賞」の事業も、回を重ねるごとに研究関係者の間での知名度が高まり、本賞が研究者に対する社会的評価の一つとして位置づけられるようになってまいりました。

なお、財団創設以来２７年間の助成金等の事業費総額は約１７．５億円となっています。

平成１６年度は、寄付金額の減少、金利低下に伴う金融収益の減少等、厳しい環境が続きましたが、限られた資金を最大限に有効活用し、福祉分野を中心とする当財団独自の事業を通して社会的ニーズに応えてまいりました。

貸借対照表

（平成17年3月31日現在）

（単位：円）

科目	金額		
Ⅰ．資産の部			
1．流動資産			
現金預金	4,684,313		
有価証券	62,389,942		
流動資産合計		67,074,255	
2．固定資産			
基本財産			
投資有価証券	894,491,200		
普通預金	5,508,800		
基本財産合計	900,000,000		
その他固定資産			
什器備品	256,075		
その他固定資産合計	256,075		
固定資産合計		900,256,075	
資産合計			967,330,330
Ⅱ．負債の部			
1．流動負債			
未払金	8,184,046		
預り金	449,907		
流動負債合計		8,633,953	
2．固定負債			
退職給与引当金	80,000		
固定負債合計		80,000	
負債合計			8,713,953
Ⅲ．正味財産の部			
正味財産			958,616,377
(うち基本金)			(900,000,000)
(うち当期正味財産減少額)			(9,347,323)
負債及び正味財産合計			967,330,330

平成16年度収支計算書

（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）

（単位：円）

科目 大科目	科目 中科目	科目 小科目	16年度予算額	16年度決算額	差額	備考
Ⅰ．収入の部						
1．基本財産運用収入			8,000,000	7,395,141	604,859	
2．寄付金収入			71,000,000	73,740,000	△ 2,740,000	寄付金の増加
3．雑収入	受取利息		10,000	6,333	3,667	
当期収入合計(A)			79,010,000	81,141,474	△ 2,131,474	
前期繰越収支差額			66,000,000	67,645,071	△ 1,645,071	
収入合計(B)			145,010,000	148,786,545	△ 3,776,545	
Ⅱ．支出の部						
1．事業費	社会福祉事業	助成金	42,000,000	40,650,000	1,350,000	
		諸費用	4,000,000	3,965,135	34,865	
	（小計）		46,000,000	44,615,135	1,384,865	
	福祉諸科学事業費	助成金	2,000,000	0	2,000,000	申請案件なし
		諸謝金	4,000,000	2,557,109	1,442,891	研修会終了（講演会なし）
		刊行物関係	3,000,000	1,216,532	1,783,468	研修会終了（講演会なし）
		諸費用	3,000,000	1,957,011	1,042,989	研修会終了（講演会なし）
	（小計）		12,000,000	5,730,652	6,269,348	
	文献表彰事業費		8,000,000	7,501,475	498,525	受賞者2名（4名枠）
	（小計）		8,000,000	7,501,475	498,525	
（事業費計）			66,000,000	57,847,262	8,152,738	
2．管理費	人件費	給与等	17,500,000	17,999,755	△ 499,755	
	物件費	会合費	2,000,000	1,424,949	575,051	
		旅費交通費	300,000	189,140	110,860	
		通信費	700,000	717,472	△ 17,472	
		消耗品費	300,000	347,434	△ 47,434	
		図書費	200,000	223,911	△ 23,911	
		備品費	200,000	0	200,000	
		資産管理費	600,000	869,796	△ 269,796	ホームページ改訂
		印刷製本費	200,000	274,875	△ 74,875	
		光熱費	0	0	0	
		賃借料	500,000	474,503	25,497	
		調査費	200,000	161,570	38,430	
		業務委託費	7,000,000	6,949,221	50,779	
		諸会費	600,000	515,500	84,500	
		雑費	2,300,000	2,350,855	△ 50,855	
	（小計）		15,100,000	14,499,226	600,774	
（管理費計）			32,600,000	32,498,981	101,019	
3．予備費			5,000,000	0	5,000,000	予備費支出なし
当期支出合計(C)			103,600,000	90,346,243	13,253,757	
当期収支差額(A－C)			△ 24,590,000	△ 9,204,769	△ 15,385,231	
次期繰越収支差額(B－C)			41,410,000	58,440,302	△ 17,030,302	

財団役員・評議員・委員が改選されました

（任期：平成１９年３月末まで）

平成１７年４月１日付および７月１日付の当財団役員等の人事に関しましては、新たに以下の方々が理事・評議員に就任いたしました。（敬称略・肩書きは平成１７年７月１日現在）

理　事　古川貞二郎〔４月１日付〕（前内閣官房副長官、元厚生事務次官）

評議員　板山　賢治〔４月１日付〕（社会福祉法人浴風会理事長）

衛藤　博啓〔４月１日付〕（みずほ信託銀行顧問・前社長）

大橋　謙策〔４月１日付〕（日本社会事業大学学長・日本地域福祉学会会長）

杉崎　重光〔４月１日付〕（損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ総合研究所理事長・元ＩＭＦ副専務理事）

大塚　義治〔７月１日付〕（日本赤十字社副社長・元厚生労働事務次官）

鳥居　泰彦〔７月１日付〕（日本私立学校振興・共済事業団理事長・元慶応義塾長）

吉川　弘之〔７月１日付〕（産業技術総合研究所理事長・元東京大学長）

涌井　洋治〔７月１日付〕（日本たばこ産業代表取締役会長・元大蔵省主計局長）

選考委員　石川　耕治〔４月１日付〕（損害保険ｼﾞｬﾊﾟﾝ労働組合執行委員長）

なお、７月１日現在の役員等の名簿は次ページの通りです。

理事･監事･評議員一覧

【理 事 長】
平野浩志　損害保険ジャパン代表取締役社長

【専務理事】
田中　皓　損保ジャパン記念財団

【理　事】
鴻　常夫　東京大学名誉教授
金田一郎　日本社会福祉弘済会理事長・元社会保険庁長官
西嶋梅治　法政大学名誉教授
古川貞二郎　前内閣官房副長官・元厚生事務次官
三浦文夫　武蔵野大学名誉教授
森嶌昭夫　地球環境戦略研究機関理事長
和田正江　主婦連合会参与

【監　事】
斎藤昭一　公認会計士
牧　憲俊　公認会計士

【評 議 員】
石田　満　上智大学名誉教授
板山賢治　浴風会理事長
江頭憲治郎　東京大学大学院教授
衛藤博啓　みずほ信託銀行顧問
大島雄次　明治安田生命保険相互会社相談役
大塚義治　日本赤十字社副社長
大橋謙策　日本社会事業大学学長
落合誠一　東京大学教授
金澤　理　早稲田大学名誉教授
上村　一　恩賜財団母子愛育会会長
川井　健　一橋大学元学長
倉澤康一郎　慶応義塾大学名誉教授
佐藤正敏　損害保険ジャパン取締役常務執行役員
杉崎重光　損保ジャパン総合研究所理事長
辻　伸治　損害保険ジャパン コーポレートコミュニケーション企画部長
鳥居泰彦　日本私立学校振興・共済事業団理事長
西崎哲郎　KFi 株式会社社長
庭田範秋　慶応義塾大学名誉教授
福井光壽　東京都医師会元会長
前田晃伸　みずほフィナンシャルグループ取締役社長
三好次夫　ユニバース開発会長
吉川弘之　産業技術総合研究所理事長
涌井洋治　日本たばこ産業代表取締役会長

審査委員・選考委員一覧

【社会福祉文献表彰制度審査委員】
大橋謙策　日本社会事業大学学長
日本地域福祉学会会長
浅野　仁　関西学院大学教授
竹内孝仁　国際医療福祉大学大学院教授
早川克巳　川村学園女子大学教授
福山和女　ルーテル学院大学教授
古川孝順　東洋大学教授

（　同　顧問）
右田紀久恵　大阪府立大学名誉教授
大橋宗夫　損保ジャパン総合研究所前理事長
岡本民夫　同志社大学教授
園田恭一　新潟医療福祉大学大学院教授
田端光美　日本女子大学名誉教授
三浦文夫　武蔵野大学名誉教授

【社会福祉選考委員】
板山賢治　浴風会理事長
石川耕治　損害保険ジャパン労組執行委員長
関　正雄　損害保険ジャパン CSR・環境推進室長
竹中浩治　ヒューマンサイエンス振興財団理事長
松尾武昌　全国社会福祉協議会常務理事
山崎美貴子　神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部長 東京ボランティア・市民活動センター所長

【福祉諸科学選考委員】
京極高宣　国立社会保障・人口問題研究所所長
小林　篤　損保ジャパン総合研究所 代表取締役常務研究主幹
桜田謙悟　損害保険ジャパン金融法人部長
高橋紘士　立教大学教授
広井良典　千葉大学教授
山下友信　東京大学大学院教授

（敬称略　五十音順　平成１７年７月１日現在）

平成１７年６月１３日に開催された
「第１回通常理事会・評議員会」の会議風景

「第6回損保ジャパン記念財団賞」の贈呈式を開催

３月２９日、わが国における社会福祉の優れた学術文献を表彰する「第６回損保ジャパン記念財団賞」の贈呈式が、本社ビルで開催されました。

わが国の社会福祉をめぐる環境の変化の中で、その質･量・技術面の向上を図るための学問的研究に係わる優秀な人材の育成は、急がねばならない重要課題となっています。

この賞は、こうした社会的要請に応えるため、中堅・若手の研究者の登竜門として平成１１年から実施し、今回で６回目を迎えましたが、年ごとに賞としての社会的評価、ステータスは着実に高まってきています。これまで受賞された方々は、それぞれの専門分野で着実な成果を挙げられ、社会福祉学の向上、ひいてはわが国の社会福祉の発展に寄与されてきています。

贈呈式は、厚生労働大臣の祝辞をはじめ、各方面から１２０名を越えるご来賓の方々が出席され、受賞者のスピーチを始め熱気あふれる感動的な贈呈式となりました。

受賞文献は、推薦図書３２編、推薦論文１６編が４回にわたる審査委員会において、熱のこもった議論の中で慎重に審査され（審査委員長・大橋謙策　日本社会事業大学学長・日本地域福祉学会会長)、２月１４日の臨時理事会で決定されました。受賞文献は、次のとおりです。

《著書部門》『中途失聴者と難聴者の世界』
（一橋出版（株）平成１５年８月）
山口 利勝 様　第一福祉大学人間社会福祉学部
社会福祉学科(通信教育部)助教授

《論文部門》「高齢者福祉施設スタッフのQWL測定尺度の開発」
（『社会福祉学』平成１５年７月）
李　政元 様　関西福祉科学大学社会福祉学部
社会福祉学科専任講師

受賞者には、三浦理事より賞状・研究助成金にあわせ、記念品として特製のひまわりの七宝焼きの額が手渡されました。

特に今回は、著書部門の山口氏ご自身が中途失聴者ということもあり、パソコンによる要約筆記やノートテイクを初めて導入しました。

受賞者を囲んで
審査員・財団役員･ご家族の皆様
(前列中央左が山口利勝氏、右が李政元氏)

受賞者記念講演会が開催されました

前ページ掲載の平成１６年度の受賞者を講師にお招きしての記念講演会を、７月９日（土）に文京区白山の東洋大学で開催しました。

当日は梅雨空の中、１３０名を越える方々が出席され、今年４月に完成したばかりの白山キャンパス６号館６Ｂ１２教室がほぼ満席の盛況となりました。

会場には、パソコン要約筆記・手話通訳に加え、補聴器を使用していらっしゃる方のために磁気誘導ループを張った席を設け、少しでも快適な聴講環境を整える配慮をしました。講演会終了後に回収したアンケートでも評価は高く、今後もこうした環境整備を望む声が数多くありました。

今回は、新たに「日本社会福祉学会関東部会」に共催していただき、ますます充実した記念講演会へと成長しつつあります。

審査講評を述べられる
大橋審査委員長

山口利勝氏

李政元氏

熱心に聞き入る、参加者のみなさん

ワンポイント解説

要約筆記というのは、その場で聴者が聴覚によって得られるのと同じ情報を、聞こえない方が、話し手と同時に視覚に変えて情報が取れるようにすることです。その方法には次の二つがあります。

1．**ノートテイク**

聴者の中に、１～２名の聴障者が参加のとき、隣で紙などに書いて見せる。

2．**パソコン要約筆記**

聴者の中に多数の聴障者が参加の時、パソコンに入力したものを、スクリーンに映し出して見せる。

磁気誘導ループというのは、ループアンテナに音声電流（磁気誘導アンプ）を流すことにより、補聴器に内蔵されている磁気コイルに交流電圧を誘起させ、この電圧を補聴器内で増幅して音を聞き取りやすくするものです。

欧米では補聴システム（磁気ループ）は、すでに常識化されていますが、日本の場合は設備されているところは限られているのが現状です。

講演会参加者のアンケートから

「中途失聴者と難聴者の世界」山口利勝氏の講演について

- 特別養護老人ホームにおいて、聴覚障害者の受け入れをする予定です。「手話」にこだわってきましたが、「要約筆記」が必要なことに気付き、改めて準備の再構築をしたいと思います。
- 私のいる職場にも難聴の人がいるのですが、今までなんとなく付き合いづらく感じていました。しかし、今回の講演で認識を改めました。今後はバリアを低くして付き合うようにしたいと思います。
- 私は同じ難聴者ですが、難聴者の精神的な心情を話して下さり涙がこぼれました。情報保障が十分でないと社会生活が困難であるということ。本日はパソコン要約筆記・磁気ループ・手話通訳とご配慮下さり感謝しております。このような情報保障があって初めて苦もなく社会参加できるということをご理解いただきたいです。
- 「話す」ことができる（音声言語が獲得できている）ばっかりに、逆に周囲から“障害者”とみなされないことで、本人が苦悩やストレスを感じるという点は、新しい気付きとなった。
- 中途失聴者や難聴者と関わっている要約筆記者として「意識のバリアをなくすことを世間に広めることが重要である」というまとめは、活動していて実感していることです。
- 主人が難聴者であり、大変さが分かっているつもりでしたが、改めて「そっかー！」と思うところ（主人は雑談のとき笑顔ですが、後で私に質問してきます）がありました。難聴者の困っていることが、こうしてまとめて発表されたということが、今後難聴者への理解・ケアへの大きなきっかけになるのを期待します。
- これまで意識してこなかった〔別の世界〕が存在することを知った。貴重な研究であり、受賞にふさわしい内容の講演を聞けた。障害者の内面と外面、主観と客観、主体と客体という２つの視点から中途失聴者や難聴者の姿を投影し描き出した研究であり、時間を割いて聞きにきた甲斐があった。
- 社会福祉の分野の研究は、今までスポットが当てられていなかった方々に対して光を当てていくことなのだと理解できました。

「高齢者福祉施設スタッフのＱＷＬ測定尺度の開発」李政元氏の講演について

- タイトルを見たとき、何だかさっぱり分かりませんでした。でも、お話を聞いて職場環境の調査方法のことなのですね。ケアワーカーの平均勤続年数の短さにはビックリです。
- とても面白いアプローチだと思った。私も福祉施設で働いているが、職員の回転が速い（すぐ辞める人が多い）。施設管理者がこのアンケートを取り入れてみたら良いと思った。
- 介護職員の働き甲斐は、入居者・利用者との関わり合いによるところが大きいと思います。是非、介護の質→入居者・利用者の生活向上→労働力改善という視点も研究して下さい。
- 働く側の人間が一言で言うと「幸せ」でなければ、周囲の人々に良い影響を与えることは無理だと、はっきり言い切れると感じている。その点では、ＱＷＬを測定することは働く側の内面を探り数値化できる手段だと感じ、必要性は高いと思った。

「損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ記念財団賞」関連記事の紹介

「消費と生活　NO.263 '05.5.6」（株式会社消費と生活社）より抜粋

文献表彰制度への推薦著書から

早川　克巳

損保ジャパン記念財団に社会福祉学術文献表彰制度がある。社会福祉分野の研究者育成を目的に秀れた学術文献を表彰する。大橋謙策氏を委員長にこの分野で一流の審査委員が審査、財団理事会で決定する。審査委員会にあがって来る著書、論文は指定推薦制をとっているので、文献の水準は高く保たれ審査委員会も多くの著書、論文に目を通し、白熱した議論を重ねる。縁あって審査委員の末席に名を連ねており、とうてい他の審査員と並ぶべくもないのだが、この分野の動向を知り研究の一端を学ぶ貴重な機会を得ているので、本誌読者にも役立ちそうな著作の一部を紹介してみよう。

平成一六年度の著書部門受賞は「**中途失聴者と難聴者の世界**」（一橋出版）。第一福祉大助教授の山口利勝氏は大手自動車メーカー勤務の後、広島大学で教育心理学を修め、自身が失聴者となり聴覚障害者の心

理・社会面を研究テーマとするようになった。視覚もそうだが中途で失明、失聴するとその影響は健常者には図り知れないものがある。特に聴覚障害者は外見、行動など普通の人と変わらないのに周囲の人とコミュニケーションできない危機にさらされる。今まであまり語られることのなかったその世界を、自らの個人的体験談に止めず、心理学、社会学、社会人類学的知見をもとに学問的水準の高い内容にまとめた。しかも平易でわかりやすく広く一般の人でも読んでほしい著作となった。山口氏を取り巻く人々も出席した表彰式は、出席者の感動が静かな波となって伝わって来て印象的だった。

最近は介護をめぐる仕事を志す若い人が多い。しかし資格をとってお年寄りや病人、障害者に親切にお世話するというだけでなく、特に大学で福祉分野を学ぶ人、社会人で第二の人生を福祉分野で送りたいという人は、科学的・研究的な実践を心がけたい。それでこそケアマネージャーなど指導的立場につけるというものだろう。文献賞にはもれたが「**はじめての介護研究マニュアル**」(保育社)はそういう志の高い人向けにうってつけだ。介護研究を科学的に実践するためのアイデアから研究発表までを手引きしてくれるテキストで、研究することの意味から解き起こし、テーマ発見のアイデア、研究の手順・方法、データ集め、発表の方法に至る。介護分野にはさまざまの課題があって終わりがない。研究的な取り組みで介護の質が向上していくというあとがきが福山市立女子短大で介護研究に取り組む著者、矢原隆行氏の姿勢をよく表している。

水準の高い一般書として注目したのが、王文亮氏の「**中国農民はなぜ貧しいのか**」(光文社)。農業と工業、都市と農村、頭脳労働と肉体労働の三つの差別や格差が、社会的地位に、過重な労働、生活の貧しさという面で中国農民の困窮を招いている。その実態をジャーナリスティックな筆致と学問的な知見とをあわせて描き出している。胸を打つのは九州の福祉系大学で教鞭をとる社会保障・福祉研究者としての熱い思いがあればこそだろう。

王氏著書が経済的発展で注目される中国の別の面を伝えてくれるのに似て、福祉分野に新しい視野を広げてくれるのが千葉大教授広井良典氏の「**生命の政治学**」(岩波書店)。医療経済、社会保障論、科学哲学を専攻、エコノミスト賞、吉村賞受賞など声価の定まった研究者だけに幅広く深い議論が展開して刺激を受けることだろう。福祉国家、エコロジー、生命倫理とタイトルにあり、生命とは？ 簡単に QOL(クオリティ・オブ・ライフ)というが、そのライフを、生活、生命とした場合の意味は？ どのようにして保障、実現するのかなど、政治や社会のありようまで問う。ふやけかかった脳をゆさぶり、マンネリ化したルーチンワークにうんざりしかかっているビジネスマンが眠気をさます意味でも、著者の問題提起の一端にふれてみたいと思わせる。以上、受賞作一編と入賞に至らなくても広く読まれていい本をピックアップした。

福祉文献賞の外にはあるが、脳みそをゆさぶられる刺激の書としてあげたいのが、芳賀綏(やすし)東工大名誉教授の「**日本人らしさの構造**」(大修館書店)。先に同氏の「昭和人物スケッチ」を本欄でも紹介したが、軽妙洒脱なエッセーで私たちが親しんで来た同氏著作とは一味違った「言語文化論講義」だ。国語学、コミュニケーション論に精通する硯学が日本人らしさを表す指標語句を手がかりに、日本人の意識・行動を活写していく。

筆者はかつて余暇開発センターの「日本人論の検証」プロジェクトに参加、ベネディクト、土居健郎、中根千枝、ベンダサンらの論のキーワードの妥当・通用性を検証する仕事に関わったことがある。それ以来の知的興奮を受けた書と述べておこう。

地域福祉の充実と支えあう地域社会の実現に向けて

「NPO法人基盤強化資金助成」を実施

４月２７日（水）に平成１６年度「ＮＰＯ法人基盤強化資金助成」の贈呈式が、損保ジャパン仙台支店会議室において開催されました。この助成事業は、当財団の「ＮＰＯ法人設立資金助成」に次ぐ新たな事業として、設立された福祉系のＮＰＯ法人が、地域でより質の高いサービスを提供できるよう支援することで、地域福祉の充実を図り、ひいては地域で支えあう社会の実現を目指す事業です。

１６年度は試行期間として、宮城県において募集を実施し、選考委員会において厳選された５団体に対して４０万円から７０万円の基盤強化の助成金が贈呈されました。

対象となった各団体は、地域のニーズに応えるために新たな事業を計画したり、既存の事業拡充・サービス向上を計画しながらも、資金的な事情等で実行に移せないでいたところへ、本助成がきっかけとなり、計画の実現に一歩を踏み出すことが出来ました。当日は、５団体から８名の方々が出席され、梶谷仙台支店長から決定通知書が交付されました。それぞれのＮＰＯ法人は、本助成の意義をしっかり理解し、基盤強化への取り組み決意を新たにされており、１年後の成果が大いに期待されます。

贈呈先は下記の通りです。

団　体　名	活　動　内　容
ＮＰＯ法人　杜の伝言板ゆるる	キャリアを生かし社会に貢献したいというシニア層の増加を踏まえ、市民活動やＮＰＯ活動に結び付けていくシステムを構築し「シニア・キャリアＮＰＯボランティアセンター」の開設を目指す
ＮＰＯ法人　さいしょはグー！ほっとスペース・あいあい	これまでの介護保険事業等に加え、県が県有施設をＮＰＯに貸与する事業を受けて、障害者のレスパイトケア事業・サロン事業に取り組み、高等養護学校卒業生の就労支援にも寄与していく。
ＮＰＯ法人　グループゆう	ＮＰＯの社会的評価の向上を目指し「福祉サービスの品質マネジメントシステムの構築」に同法人の会員自らが取り組み、その成果を公開し他のＮＰＯの品質管理の一助としていく
ＮＰＯ法人　みやぎ身体障害者サポートクラブ	郡部で身体障害者のデイサービスを実施しているが、近隣に同種サービス事業者がないため利用者が急増し十分なサービス提供が困難な状態に至っており、施設の改増築が急務となっている。
ＮＰＯ法人　シニアのための市民ネットワーク仙台	障害者向けパソコン講習会に取り組み、特に遅れている中途視覚障害者に対する音声ソフトを活用した研修に力を入れた事業を展開する。他団体とのネットワーク化を推進し技量向上にも貢献していく。

河北新報（05.5.9）

★ＮＰＯ法人を支援

損保ジャパン記念財団（東京）は、ＮＰＯ法人を支援する二〇〇四年度の基盤強化資金の助成対象に、県内五つの障害者・高齢者福祉団体を選び、それぞれ助成金を贈った。一団体当たり四十七万円で、計二百九十万円。

五団体は、高齢者向け福祉サービス「杜（もり）の伝言板ゆるる」、知的障害者就職支援「さいしょはグー！」、障害児の放課後クラブ運営「グループゆう」、「シニアのための市民ネットワーク仙台」の仙台市の四団体と、栗原市（旧一迫町）の「みやぎ身体障害者サポートクラブ」。

記念財団は一九九九年度から毎年、ＮＰＯ法人化を目指す民間福祉活動に助成してきた。今回は法人化した団体の基盤強化を対象とした初めての助成で、県内五団体が全国に先駆けて選ばれた。

平成１７年４月２７日
仙台支店での贈呈式から

平成17年度
「NPO法人設立資金助成」の首都圏地区贈呈式を開催

７月７日（木）に平成１７年度「ＮＰＯ法人設立資金助成」首都圏地区１都３県の贈呈式が、損保ジャパン本社ビル４３階で開催されました。

本年度は、全国７０の障害者・高齢者福祉団体に対し、特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）設立資金として各３０万円、合計２，１００万円の助成を行うもので、そのうち首都圏地区の２３団体に対しての贈呈を行いました。（助成先一覧は次ページ参照）

贈呈式では、選考委員長である板山賢治氏の選考概要の説明に続き、東京都生活文化局都民生活部長である高島茂樹氏から祝辞をいただき、来賓を含め１２０名を越える方々の出席を得て、盛大に開催されました。

また、シーズ･市民活動を支える制度をつくる会の事務局長である松原明氏の講演には、熱心にメモを取る姿も見られ、贈呈式終了後の既助成先も参加した交流会では講演内容を受けて､多くのＮＰＯから質問攻めに会う松原氏の姿が見受けられました。

助成金の決定通知書の交付は、毎年の例に倣って、金田理事が団体の皆様のお席を回りながら、お一人お一人に手交させていただきました。

この贈呈式の様子は、７月２１日の損保ジャパンの衛星放送でも紹介されています。

首都圏地区以外の４７団体への贈呈は、これから８月末までの間に全国の損保ジャパンの該当支店において順次開催されます。その模様は次回ニュースにてご紹介する予定です。

選考概要を話される板山選考委員長

金田理事より、団体の皆様お一人お一人に決定通知書が手渡されました。

交流会で挨拶をされる、松尾選考委員

交流会場で参加団体からの質問に答える
シーズの松原事務局長

１７年度「ＮＰＯ法人設立資金助成」贈呈先一覧

（敬称略）

都道府県	団体名	都道府県	団体名	都道府県	団体名
北海道	TAKの会	東京都	大塚土曜クラブ	兵庫県	「はこべの家」共同作業所運営委員会
北海道	小規模作業所　あかり家	東京都	サンワーク田無	兵庫県	のじぎく工房
北海道	ゆいまーる	東京都	ケアネット　ともに生きる	兵庫県	肢体不自由児・者通所作業所 つみきハウス
北海道	地域たすけあいサービス　青空	東京都	教育サポートセンター NIRE	兵庫県	ひやしんす
青森県	心身障害者小規模作業所ワークハウス ねこやなぎ	東京都	パオパオくらぶ	兵庫県	共働事業所　陽だまり
岩手県	六等星	東京都	小児病棟・在宅“遊びのボランティア” 「ガラガラドン」	兵庫県	でかけ隊
岩手県	つばさの会	東京都	東京都腎臓病患者連絡協議会	兵庫県	障害者小規模作業所 生き活き生活支援センターPatch
宮城県	NPO福祉ネットABC	神奈川県	日本脳外傷友の会	兵庫県	なないろのハート障害者協働事業所
山形県	特定非営利活動法人　置賜自然と共育の村	神奈川県	厚木市精神保健福祉を考える市民の会・アジールの会	兵庫県	尼崎中央家族会
福島県	小規模作業所　光と風の工房	神奈川県	精神障害者のあすの福祉をよくする三浦市民の会	奈良県	たむたむ荘
茨城県	茨城県ポーテージ協会	新潟県	新潟市自閉症親の会	鳥取県	淀江作業所 （淀江町精神障害者小規模作業所）
埼玉県	セカンドハウス　みんなのいえ	石川県	特定非営利活動法人 シナジースマイル	岡山県	トロワ
埼玉県	福祉団体　ひまわりの家	福井県	福井県社会就労センター協議会	岡山県	鴨方希望の会
埼玉県	飯能・日高精神保健福祉NPO法人準備委員会	長野県	STS （障害者自律支援てくてく運営委員会）	徳島県	ショップうだつ
千葉県	やちまた放課後クラブ　ぷらんこ	岐阜県	岐阜市重症心身障害児(者)を守る会・重症心身障害児者小規模訓練所 あじさいの家	福岡県	福岡県直方鞍手地域精神障害者家族会（なおみの会）共同作業所
千葉県	共同作業所フロンティア	岐阜県	身心障害者通所授産所　共同作業所 星の村	福岡県	共同作業所　はるかぜ
千葉県	アーモ福祉協会	静岡県	企業組合イルカ　手づくり工房イルカ	佐賀県	鳥栖市手をつなぐ親の会 福祉作業所「コスモス夢工房」
千葉県	POCO a POCO	愛知県	脳外傷友の会「みずほ」	長崎県	マンボウの会
千葉県	精神保健福祉を支える会NEW	愛知県	りーぱ運営委員会	大分県	さいき未来21 ふれあいプラザ「フローレス」
東京都	特定非営利活動法人　エクセルシア	愛知県	特定非営利活動法人　花＊花	鹿児島県	NPO　デフNet.かごしま
東京都	WITH	滋賀県	草津市　心身障害児者　連絡協議会	沖縄県	特定非営利活動法人　ゆい作業所
東京都	東京多摩いのちの電話	京都府	心病む人々の ステップアップ支援実行委員会	沖縄県	(家族会)むるぶし会
東京都	あい運営委員会通所訓練所あい	大阪府	精神障害者小規模作業所 フレンドリーパル		
東京都	アイゴ21	大阪府	特定非営利活動法人　ぴーす （現：堺おもちゃ図書館ぽっぽ）		

＊「特定非営利活動法人」の記載には、申請中のものを含みます。

寄付のお礼

皆さまから暖かい寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。当財団の事業は、皆さまからの貴重な寄付金により成り立っております。法人、個人問わず広く寄付金を受け付けておりますのでご協力をよろしくお願い申し上げます。

（平成１７年７月末日現在）

株式会社　損害保険ジャパン　様　　他　匿名希望１名様